

今年度のアンケートは、令和4年1月6日から1月13日まで実施した。アンケート対象者は、本校生徒全員とその保護者、職員である。いずれもスマートフォン・パソコン等を利用した入力とした。スマートフォン・パソコン等で入力できない人にはアンケート用紙に記入していただいた。保護者の回収方法がアンケート用紙からスマホ入力へと変わったこともあり、回収率が低かったと推測される。回収率は生徒 79(79)％、保護者 57(90)％、職員 77(87)％である。(()は R2 年度) 質問は昨年度の文言を少し変えた程度で、昨年の内容とほぼ同じとした。

本校の教育課題と学校経営について、今年度のアンケート結果から考察してみる。

1. 《学習指導》

- ① 質問内容は「家庭学習に主体的、計画的に取り組んでいるか」に対し、肯定的な意見(A+B)は(以下同様の集計)、下記が一番右の数値である。該当項目は、質問事項 8 (生徒・保護者)・11 (教員)である。

生徒：63％(H29) → 66％(H30) → 68％(R01) → 72％(R02) → 74％(R03)

保護者：70％(H29) → 71％(H30) → 70％(R01) → 73％(R02) → 73％(R03)

教職員：90％(H29) → 88％(H30) → 86％(R01) → 97％(R02) → 97％(R03)

年次別に見ると1年次生57％(保護者71％)、2年次生76％(保護者71％)、3年次生89％(保護者78％)である。1・2年次では、授業の予習復習・課題に追われ、「主体的」というよりは、与えられた課題をこなしていると感じる生徒もいる。3年次では9割が計画的に取り組んでおり、受験生らしい数値となっている。1・2年次の早い時期に、よい学習習慣ができたことを期待したい。

「課題の分量・内容は適切である」とする教員は97％である。ほとんどの生徒は期日を守り、課題を提出しており、生徒の頑張りが見られる。保護者の数名からは「課題が多い」という意見があるが、授業内容を定着させるには必要な学習量である。高校生活の限られた3年間で実力を身につけるためには、導いていく必要性を感じる。

- ② 本校独自の取り組みの質問項目として、質問事項 7 (生徒)・13 (教員)「i-See プロジェクトの意義を十分理解し、積極的に取り組んでいる。」に対する回答では、生徒意識が高い数値を得た。

生徒：85％(H29) → 87％(H30) → 86％(R01) → 94％(R02) → 94％(R03)

教職員：93％(H29) → 64％(H30) → 74％(R01) → 81％(R02) → 88％(R03)

コロナ禍のため今年度はどの年次もポスターとしてまとめる形式で進められた。3年次生のポスターセッションは好評だった。年次別に見ると1年次生92％(95％(R02))、2年次生94％(91％(R02))、3年次生94％(96％(R02))であり、取り組み方がよくなっている。意識が高まっていることがわかる。大学等の入試の多様化に伴い、探究内容は面接やエントリーシートでも活用されている。教職員の評価としては生徒が意義を十分理解しているのか、レポート内容・レベルはどうか、生徒の更なる主体性を期待している。職員は専門分野を担当するとは限らず、指導方法の難しさを感じる。進路指導課では指導方法の講習、指導の手引きなど用意し、指導しやすい工夫をしている。キャリア講座「読む」～考えるための情報提供～は

職員全員で取り組み様々な角度から情報を与えている。少人数での探究活動は大学でも行われ、本校の探究活動は進学先でも大いに役立つと確信している。

2. 《生活指導》

- ① 質問事項 3「学校に行くのが楽しい」の肯定的数値は、80%を超えよい数値が出ている。

生徒：76%(H29) → 79%(H30) → 78%(R01) → 85%(R02) → 84%(R03)

保護者：84%(H29) → 82%(H30) → 83%(R01) → 83%(R02) → 85%(R03)

生徒については徐々に数値がよくなり、8割超の生徒は毎日の生活に満足していると考えられる。年次別に見ると1年次生80%（保護者84%）、2年次生86%（保護者84%）、3年次生84%（保護者87%）である。ほとんどの生徒が充実した校内生活を送っていると捉えられる。コロナ禍で様々な制約があるものの、文化祭などは工夫して開催された。生徒会では動画を製作したり、リモートで各クラスを繋ぎゲームを企画したり、生徒会の企画力、生徒一人ひとりの行動力には目を見張るものがある。一方、「学校に行くのが楽しくない生徒」と「その子どもを心配している保護者」が各年次に約2割いることを常に気に留める必要がある。

- ② 質問事項 17「悩みや不安を相談できる先生がいる」に関しては、

生徒：66%(H29) → 72%(H30) → 71%(R01) → 74%(R02) → 71%(R03)

保護者：75%(H29) → 75%(H30) → 74%(R01) → 79%(R02) → 72%(R03)

年次別に見ると1年次生64%（保護者75%）、2年次生75%（保護者71%）、3年次生74%（保護者69%）である。修誠会（PTA）の補助もあり、スクールカウンセラーには年間22回、月2回の割合で来ていただいている。希望者は誰でも相談できるようにしている。教職員は27「生徒から悩みや不安の相談を受けた時、充分時間を取って対応している。」では100%である。生徒・保護者の「悩みや不安（心配なこと）があるとき相談できる先生がいる」が70%台であり、教員とは受け取り方に差があるようである。コロナ禍の下、不安な社会状況も続いており、相談しやすい体制づくりが課題である。

- ③ 質問項目 生徒 9・教員 32「社会や地域に貢献する活動に、積極的に参加している。」については、生徒の肯定的な数値が今年度も上がり、教職員と生徒の間に顕著な開きがあった。

生徒：36%(H29) → 38%(H30) → 37%(R01) → 32%(R02) → 35%(R03)

教職員：90%(H29) → 81%(H30) → 81%(R01) → 90%(R02) → 82%(R03)

例年、雪灯籠製作、部活動での除雪作業も考えられるのだが、調査時点ではまだ行われていない。（中止となった）部単位で行うボランティア活動を「部活動」と捉えている傾向もある。あるいは、年数回の活動では「積極的に参加している」とは言えないと判断したとも思われる。コロナ禍で外部との接触はできるだけ避けてきたこともあり、低い数値も仕方ないと思われる。生徒は学習・部活動などで時間に追われ、なかなか活動に参加できない状況である。一方、教職員側はそのような多忙な時間の中でも、係活動を快く引き受け、ボランティア活動をする生徒達を高く評価している。

3. 《進路指導》

- ① 「進路決定のための情報が提供されている」との質問 11 は、

生徒：91%(H29) → 93%(H30) → 92%(R01) → 97%(R02) → 94%(R03)

保護者：73%(H29) → 74%(H30) → 75%(R01) → 78%(R02) → 77%(R03)

生徒には「情報提供がなされている」という高い評価を得ているが、保護者には8割程度の

受け止め方である。コロナ禍のため集会など自粛すべき期間が続いているが、感染防止対策をとり、何とか数回実施することができた。大部分の情報は生徒を介してプリント等で保護者にも伝えられているが、生徒から保護者へきちんと伝えられているか心配である。コロナ禍・AIの進歩など社会情勢が刻々と変化する中、進路状況も変化している。更に情報を発信していきたい。

② 「進路相談がよく行なわれている」との項目 12 は、

生 徒： 80 % (H29) → 93 % (H30) → 93 % (R01) → 98 % (R02) → 96 % (R03)

保護者： 73 % (H29) → 85 % (H30) → 80 % (R01) → 79 % (R02) → 77 % (R03)

教職員： 98 % (H29) → 93 % (H30) → 93 % (R01) → 100 % (R02) → 100 % (R03)

生徒・保護者ともここ数年高い評価を得ている。昼休みに時間の合間をみては、生徒面談をしている職員もいる。多忙な校務の中、進路課や各年次団の努力の跡が伺える。職員の意識としては、質問項目 23「生徒・保護者に対して入試制度の理解と進路達成のために必要な情報提供と適切な助言が行われている。」については生徒 97 % で、高い数値だった。これからも生徒と保護者の進路に関する相談要求は常に高いことを意識していきたい。

4. <教育環境>

質問項目 「災害・事故等の非常時の備えや行動について」の質問には、

22「学校で地震や火災などが起こった場合、どのような行動をとれば良いか具体的に知らされている」

生 徒： 92 % (H29) → 96 % (H30) → 97 % (R01) → 97 % (R02) → 96 % (R03)

22「災害・事故などに迅速に対応し、非常時の備えに努めている」

保護者： 86 % (H29) → 88 % (H30) → 87 % (R01) → 90 % (R02) → 88 % (R03)

33「災害・事故・事件等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう役割分担が明確化されている。」

教職員： 95 % (H29) → 90 % (H30) → 95 % (R01) → 95 % (R02) → 91 % (R03)

35「施設・設備について、日常的に点検や管理が行われている。」

教職員： 100 % (H29) → 98 % (H30) → 100 % (R01) → 100 % (R02) → 97 % (R03)

結果は非常に高い数値を示し、安全についての意識も高いといえる。生徒・保護者・教職員の危機管理意識は高いまま保っている。

設備に関しては、Wi-Fi 環境も整えられ、iPad・スマホなどが全教室で使えるようになった。自宅学習期間はリモートでの授業もできるように改善された。リモートでの顔の見える授業は安心するものである。生徒は上手に機器を使いこなしている。効果的に展開するには情報の伝え方に工夫が必要である。

生徒 23・保護者 24 質問項目「米東メールの活用について」役立っているか 98 % (保護者 92 %)

年次別に見ると 1 年次生 99 % (保護者 92 %)、2 年次生 96 % (保護者 87 %)、3 年次生 99 % (保護者 96 %) である。緊急連絡だけでなく、部・年次からの配信など、様々な情報伝達に利用している。今年度もコロナ禍の影響で度々日程変更などがあった。その緊急連絡手段として重要な役割をした。Web 会議で使用する Zoom、Google Classroom 等も活用されている。時間割変更等の連絡で日常使用していた Google Classroom がリモート授業で大いに役立っている。